

緊迫する

世界



川上高司

▶5◀

かわかみ・たかし 1955年、熊本県生まれ。拓殖大学海外事情研究所所長。大阪大学博士（国際公共政策）。フレッシャー・スクール外交政策研究所研究員、世界平和研究所研究員、防衛庁防衛

今回の大統領選で米国には深い亀裂ができた。選挙が終わった直後から「反ドナルド・トランプ」の大規模デモが、東海岸のニューヨークやフィラデルフィア、西海岸のロサンゼルスなど、民主党の地盤で起こった。カリフォルニア州では、連邦政府からの独立を問う住民投票の動きも出てきている。そのデモ隊と、トランプ支持者との間の衝突も心配される。

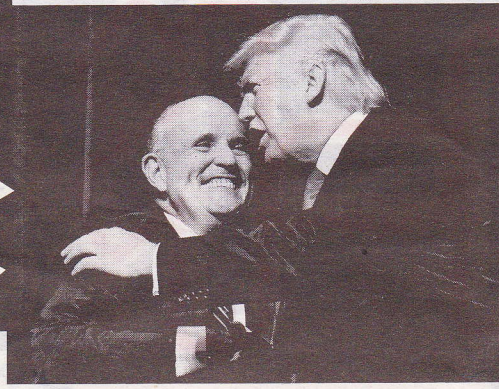
や周辺から見えてくるトランプ氏の政策は2つある。1つ目は「1000日経済政策」だ。フランクリン・ルーズベルト大統領は就任後1000日間で、議会に15件の教書を送り、主要法案を成立させた。結果、米国は世界恐慌から見事に回復した。トランプ氏はそれをまねて、「1000日行動計画」を立てた。「1兆ドル（約106兆7500億円）のインフラ投資」「法人税の引き下げ」「民間投資減税拡大」「企業の海外移転

を阻止する税制改革」「オバマケアの廃止」「メキシコ国境の壁の構築」などだ。

2つ目は「軍拡」だ。冷戦末期、ロナルド・レーガン大統領は冷戦を勝利すべく、「SDI（戦略防衛構想）」や「600隻海軍構想」といった軍拡を行った。結果、ソ連は解体し、米国は勝利を収めた。

トランプ氏は同じような「3

ジュリアーニ氏（左）は選挙戦で二貫してトランプ氏を支えた（ロイター）



て軍備増強を行う構想を持っている。

だが、トランプ氏が「レーガノミクス」（「社会保障費削減と減税、軍事費拡大を同時に行う）を模倣して、本当に成果は出るのか。レーガノミクスの結果、米国は「双子の赤字」（「貿易赤字と財政赤字の増大）を抱え、経済は地に落ちた。

次の課題は組閣である。トランプ氏は約4000人の「ポリティカル・アポインティー」（政治任用）を行う。

筆頭閣僚の国務長官には、ワシントンでなじみの

ニール・ギングリッジ元

下院議長や、ジョン・ボルトン元国連大使、リチャード・ハースCFR（米外交問題評議会）会長の名前が挙がる。

国防長官には、ジェフ・セッションズ上院議員や、ジム・タ

レント元上院議員ら、保守派らが候補に挙がっている。

国家安全保障担当補佐官には、マイケル・フリ

元DIA（国防情報局）局長らが、CIA長

官には、元ニューヨーク市長のルドルフ・ジュリアーニ氏が浮上。

経済閣僚の要である財務長官には、ヘッジファンド「デュイン・キャピタル・マネジメント」のCEO（最高経営責任者）、ステイブ・ム

ヌー・アーン氏や、著名投資家のカール・アイカーン氏らの名前が連なる。

ワシントンでの政治経験がまったくない「金もうけ」に人生を賭けていたトランプ氏。その彼が

来年1月20日、ホワイトハウスの「主」となる。「緊迫した世界」が迫っている。おわり

米新政権、注目の組閣リスト

大統領就任まで2カ月余り。トランプ氏の課題は、政策立案と組閣である。これまでの発言

「法人税の引き下げ」「民間投資減税拡大」「企業の海外移転

ジュリアーニ氏（左）は選挙戦で二貫してトランプ氏を支えた（ロイター）

ド・ハースCFR（米外交問題評議会）会長の名前が挙がる。

国防長官には、ジェフ・セッションズ上院議員や、ジム・タ